

寒さ厳しい、インフルエンザも猛威をふるっている季節になっております。春が待ちどおしい、それでいて次年度のことを考える時期になりました。  
今回は 23 年度 10～12 月期の集計をご報告いたします。

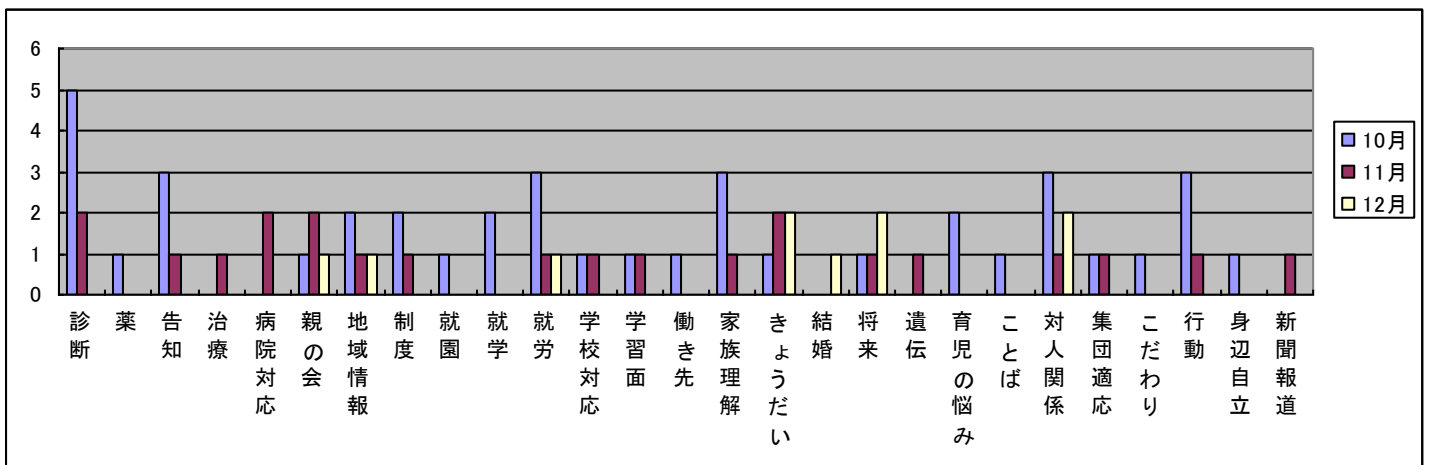


## ①メンター活動報告(10～12月)

	活動内容	延べメンター数	対象者数
10月3日	サポートブック研修(おひさま)派遣	1名	20名
10月6日	りんくすグループ相談会①(派遣)	2名	3名
10月7日	サポートブック研修	1名	7名
10月16日	事例検討会② 勉強会①	12名 10名	
10月23日	SST茶話会(小・中・高)	2名	18名
10月24日	小学校現任研修(講師依頼)	1名	15名
10月27日	勉強会②	9名	
10月31日	サポートブック研修(応用ブック作成リーダー)	1名	15名
11月10日	りんくすグループ相談会②(派遣)	2名	10名
11月10日、11日	家族支援プログラムサテライト②(安城) サポートブック研修 障害特性講義・疑似体験 ピアカウンセリング	1名 外部 10名	11名
11月13日	SST茶話会(小)	2名	7名
11月20日	サポートブック研修(下関)派遣	1名	34名
11月21日	サポートブック研修(くるみ会)派遣	1名	14名
11月25日	事例検討会③	6名	
12月1日	サポートブックフォロー研修(おひさま)派遣	1名	9名
12月2日	サポートブック研修(中川保健所)派遣	1名	10名
12月5日	サポートブック研修(応用研修)	1名	9名
12月6日	サポートブックフォロー研修(おひさま)派遣	1名	13名
12月7日	相談従事者研修ロールプレイ派遣	10名	43名
12月8日	りんくすグループ相談会③(派遣)	2名	10名
12月14日	メンター茶話会③	8名	9名
12月15日	サポートブック研修(支援者向け)派遣	2名	47名

## ②メンター活動報告書の集計(10～12月) 9名のメンターより、30件の報告がありました。

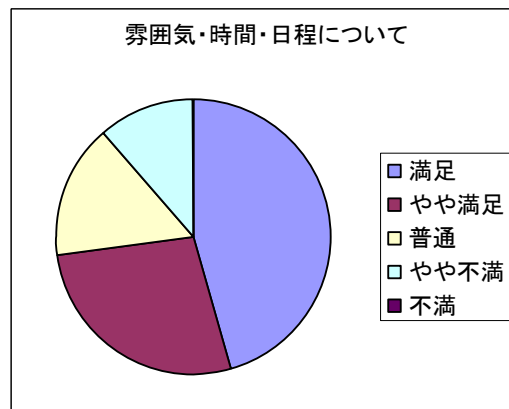
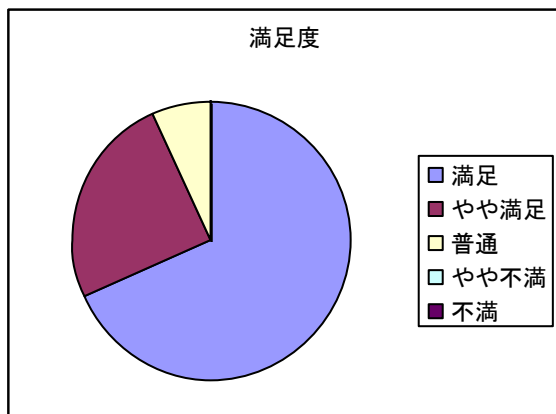
(1)相談内容 提出された報告書より、相談項目をグラフ化しました(1件の報告で複数ある場合もあります)



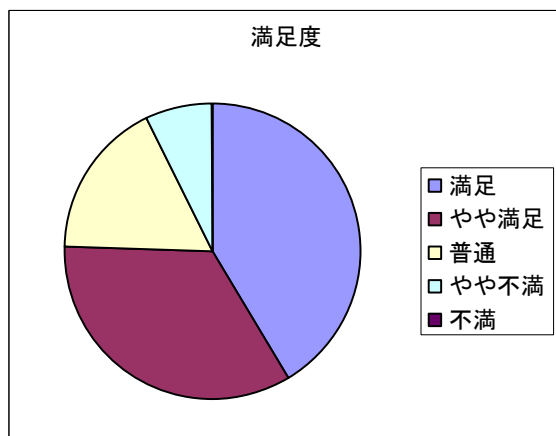
## (6) サテライト報告

今年度三会場の参加者アンケートを集計しました。

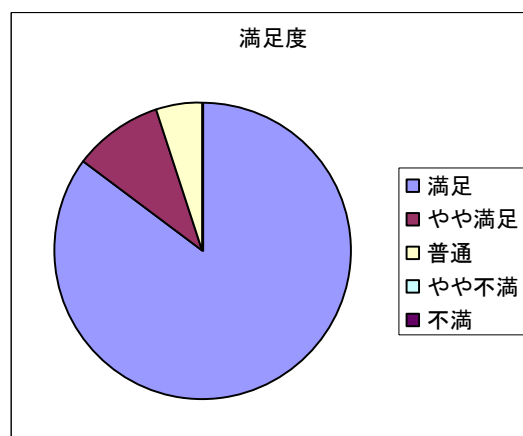
### 『プログラムについて』



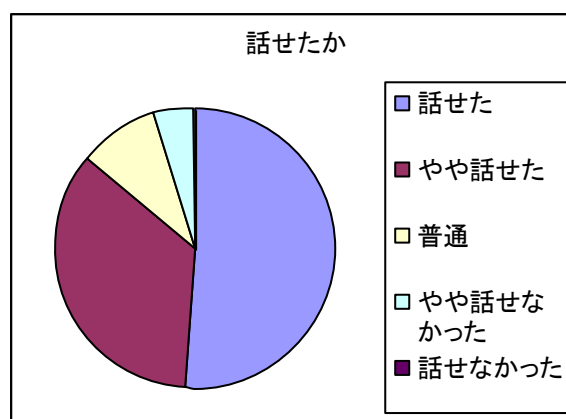
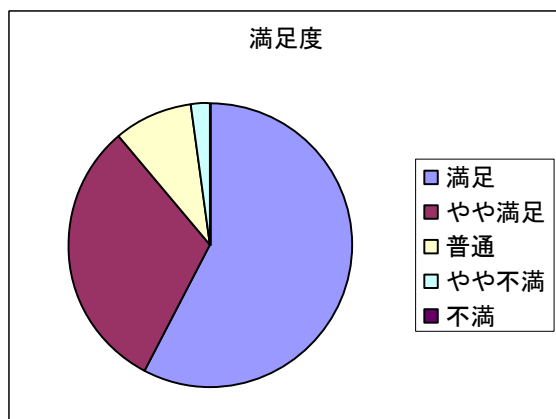
### 『サポートブック作成』



### 『擬似体験・障害特性』



### 『ピアカウンセリング』



瀬戸会場 21名、安城会場 14名、あま会場 11名の参加がありました。延べ48名のペアレントメンターがこのサテライト事業に派遣されました。

名古屋市発達障害者支援センター企画の「グループ相談会」も9月より毎月1回、テーマを設定して行っております。次号でこの結果はご報告します。

## 「今回のゲストコメンテーター」

ペアレントメンターのみなさん、こんにちは。すっごく寒い日が続いていますが、お風邪など召していませんか？ JDDネットの氏田です。

日本財団の助成を受けて2005年4月よりスタートしたペアレントメンター養成事業は、当初は自閉症の家族を対象にしたものでしたが、2008年度に愛知県が全国に先駆けて自主財源でその取り組みを開始してくれたこともあって全国各地の自治体における独自開催へと広がりつつあります。また自閉症以外の発達障害の支援団体へと波及していることをとてもうれしく思います。

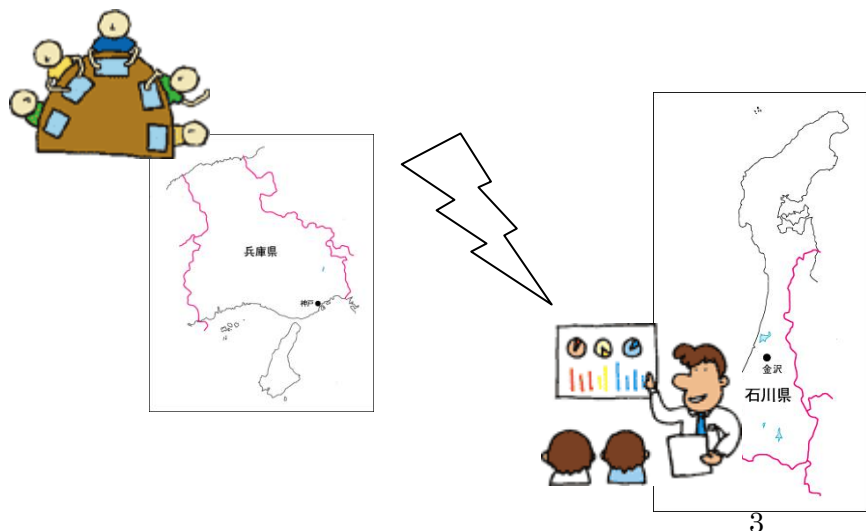
1月末には、NPO法人全国LD親の会主催で兵庫県において開催された「家族支援ピアカウンセラー養成講座(ペアレントメンター養成講座のプログラムを取り入れた2日間にわたる講習会)」に井上先生、愛知からの多久島さん(かたつむり)、今村さん(つぼみの会)とともに出向き、全国各地のLD親の会のお母さま、お父さまのご参加を得て(受講者20名)、二日間にわたる養成講座を実施したところですが、同じ週末に、吉川先生、加藤さん、小倉さんは、石川県においてメンター養成事業を実施されています。

こうして、日本国内でもいろいろな地域でメンター活動が広がりつつありますが、世界各国でも Parent to Parent などの名称で家族たちによる相談支援の取り組みが様々な形で展開されています。日本における取り組みは、米国ノースカロライナ大学 TEACCH 部の実践をお手本としたものですが、メンター事業開始にあたり、地元の発達障害者支援センターとの共催を必須としたものの TEACCH 部の実践との大きな違いは、コーディネーターの配置でした。しかし、2010年には厚労省による施策化が進められることになり、2012年度はコーディネーター事業が予算化されます。

ペアレントメンターを支えるためには、各バックアップ機関のスタッフ研修とメンターをコーディネートする「ペアレントメンター・コーディネーター」の養成が必要です。

JDD ネットでは、今後のメンター活動のさらなる推進を図るために、本年度より『発達障害のためのペアレントメンター養成にかかわるスタッフ研修及びメンターコーディネーター養成研修プログラムの開発と実施』という新事業の取り組みを開始したところですが、本事業ではこの2つのプログラムを開発実施し、効果検証を行うことで全国に普及できるモデルを構築することを目的としています(JDDNET 家族支援プログラム事業担当：井上、吉川、原口、加藤、小倉、竹澤、日詰、氏田)。

2012年、家族たちによる相談支援活動は、養成事業開始後7年を経て国の施策化という大きなバックボーンを得、発達障害者支援体制の一翼を担うべくさらなる一步を踏み出したと言えるでしょう。ちょっと先輩のペアレントメンターたちが新米ママたちによりそうことで子育ての応援が出来ればと願っています。



氏田照子  
一般社団法人日本発達障害ネットワーク

このふたつに加え、保育士研修なども開催されており、3箇所ではメンターがそれぞれ業務についてのアクロバティックな日程でした。チームならではの、体制が取れたと思っています。(加藤)

### ③【各地の研修風景から 第1回】 愛知県



愛知県自閉症協会では、筆者加藤以外に県外へのメンター派遣もご依頼に応じて少しずつ増えてきました。ここで各地での研修の様子を数回に渡りリレーでお伝えして行こうと思います。

まずは、この愛知県。

愛知でのベーシック研修は2005年第一回の研修修了者が2008年度ベーシック・フォローアップでのロールプレイのファシリテーターに入りました。2005年終了後、ある程度の活動基盤ができつつあるところでのベーシック研修であり、その後の活動ビジョンを描いての研修だっただけに、研修→活動とスムーズにできました。三重、静岡、和歌山、長崎、福岡、高知と他県の受講者、愛知県下アスぺの会、えじそんくらぶからの参加もありました。

2008年度のベーシック研修は(社)自閉症協会本部委託(日本財団助成事業)、フォローアップ、サポートブック作成リーダー養成研修は愛知県発達障害者支援試行事業でと全国初の「県予算」、また、「発達障害団体へ受講資格をひろげる」という二つの全国初の取り組みをしました。企画委員としての一年の経験を踏まえ事務方の仕事をまとめ、全国にお使いいただけるファイルを作成した一年でもありました。そして、吉川先生がこのメンター事業というプールに華麗なジャンプで飛び込んだ記念すべき2008年でもあります。この翌年から活動報告書、メンター通信がはじまり、現在日本財団助成事業として応用研修を継続させていただいています。

2010年度には愛知発達障害者支援センター主催のベーシック、翌年にはフォローアップ・サポリーダー研修を行い、LD親の会かたつむりさんの修了者も誕生し、現在は46名(うち登録者43名)の愛知県です。

愛知の研修は、ほとんどの受講者が顔見知り、ファシリテーターも顔見知りという和気藹々な雰囲気、笑いの耐えない研修です。メンター研修は緊張して受講するとプレッシャーがかかります。リラックスして受講できる雰囲気を大切にしています。

現在は発達障害四団体で連絡をとりつつ、事例検討会では活発に意見交換をし、メンター活動にも積極的に参加いただいています。

【加藤 香】

華麗なジャンプ…というよりも、気がついたらいつのまにか抜け出せなくなっていた吉川です。

愛知の研修の一番の特徴は、メンター、行政、専門家がバランスよく関わっていることだと思います。地域で継続したベーシック、フォローアップの研修が行われているので、地域の先輩メンターが養成研修のインストラクター、ファシリテーターとして関わる形ができあがっていること、愛知県発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋が仲良くサポートしてくださっていること、地域の支援者、研究者や全国からの専門家の支援が得られていること、これだけの条件が整っている地域は、まだまだ少ないのが実状です。親御さんたちが、必要だと思うサービス、提供したいと思うサービスを届けるための研修が、行政機関や専門家のサポートで行われているとてもバランスのよい形になっていると思います。

愛知で研修を受け、活動を続けてこられたメンターの方々が、他の地域でのメンターの養成に関わり、また活動の展開や継続についてもアドバイスをしていただけることは、とても素晴らしいことだと思います。こうして全国の研修の様子を愛知のメンターの方々から聞かせていただける、この連載を楽しみにしています。

【吉川 徹】





# ペアレント・メンターの本を発刊しました

『ペアレント・メンター入門講座 発達障害の子どもをもつ親が行なう親支援』の編集を担当しました学苑社の杉本哲也と申します。

「ペアレント・メンターの本があったらいいな」という会話を学会の販売会場で聞いたことが、この本を作るきっかけでした。「ペアレントトレーニングとは違うのか?」「メンターとは良き指導者のこと?」と、恥ずかしながらよく理解していない状況の中で、ネットを中心に情報を得ていきました。調べれば調べるほどに「ペアレント・メンター」という支援の必要性を感じました。なんとしても本にして、多くの人に知ってもらいたいという気持ちが強くなりました。

インターネットで加藤さんのご活躍を知り、思い切ってメールをしてから、井上先生に話が伝わり、ズンズン進んでいきました。編者の井上先生は、執筆中に入院なされましたが、看護士さんの目を盗んでは、夜な夜な執筆してくださいました。

また、原稿が揃った9月の名古屋国際会議場でのスペクトラム学会の際には原稿のダメだしがあり、「もっと早く言ってよー」と、〇〇先生の〇〇先生に対する甲高くも、もの悲しさを漂わせる嘆きが、今も耳に残っております。さらにメンターとして活躍されていらっしゃる方々の熱のこもった原稿には、たいへん感動しました。本当にありがとうございました。またイラストは、メンターの渡部さんに描いていただきました。書店に置かれると、ひととき目立つ装丁となりました。

おかげさまで売り上げも好調です。ペアレント・メンターのバイブルとして、多くの方々に読んでいただきたい素晴らしい本です。どうぞよろしくお願ひ致します。



『ペアレント・メンター入門講座 発達障害の子どもをもつ親が行なう親支援』  
井上雅彦・吉川徹・日詰正文・加藤香 編著 B5判/1995円(税込)  
学苑社 <http://www.gakuenasha.co.jp/cn15/pg353.html>

=====★=====★=====★=====★=====

## ⑥今後のお知らせ

1. 平成23年度の応用研修Ⅲは準備段階に入っております。今回は一日目、二日目と会場が変わっておりますのでご注意ください。参加費、昼食代(申し込まれた方のみ一食1000円)をご用意いただき、当日会場までお出かけください。
2. 1~3月の活動報告書提出の締め切りについては、年度末のため4月3日にさせていただきます。期日までにご連絡を御願ひ致します。

☆今年度の多く活動にご協力いただきありがとうございました。来年度もきつと続くとお思います。継続した参加をお願いいたします。

## 第 11 回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

メンターの皆様、いつも熱心なご活動の様子を教えていただき、自分にもエネルギーをもらっている気がします。皆さんに負けないように頑張らねば、と思っています。

ペアレントメンターの活動が活発なのはとてもよいことだと思うのですが、一方で頑張りすぎでは活動を長く続けていくことが難しくなってきます。メンターへの相談のニーズは、ライフステージ全般にわたっています。今回の報告をみても、成人の相談がかなりの割合を占めていることがわかります。ちょっと先輩のお父さん、お母さんから、親の大ベテランまでのメンターがそろって元気に活動して、診断や就学から成人期の暮らし、成年後見やひよっとすると老後の相談まで、幅広く対応していけることが理想的です。そのためにも、細く長く、活動を続けていただける、それぞれのペースを見つけていただければと思います。

長く活動を続けていく、というのは簡単なことではありません。いつとき頑張りすぎて疲れてしまったり、お家の中の出来事や事情でそれまで通りのペースで活動を続けるのが、難しくなったりするかもしれません。また、折に触れてやりがいを感じながら、自分の力が伸びてきていることが実感できないと、やはり気持ちを保ち続けることが難しくなります。

そんなときに、上手く休むこと、切り替えることができるスキルというのは大切です。また継続した研修や事例検討などの機会を通して、時々新しい知識や技術に触れていくことが、気持ちを保ち続けるための材料になるかもしれません。また何よりもメンター同士が集まって、話をするのが、大きな支えになるのだと思います。そんな思いもあって、今年の応用研修では、メンターのストレスマネジメントがテーマの一つに選ばれました。長く続けていくための相談の技術やスタンス、ストレスの解消法、メンター同士の支え合いなどについて、一緒に考えていけたらと思います。

もうひとつ大切なのは、新しいメンターのリクルートです。メンターの地域活動を参加された親御さんたち、地域の親の会や、療育機関の OB 会、PTA などで活動されている若い親御さんたちに、メンターの活動を知っていただき、自分も参加してみたい、と思ってもらえるような、魅力的なメンター活動、メンター集団でありつづけていただけることを期待しています。

名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 吉川 徹

### <編集後記>

10号で「冬休みが長い！」とぼやいた後、新しいカレンダーをパラパラ見ると「春休みも長い!!」。娘は『土曜が祝日になっている日が多い!』そのふたりの様子をニコニコ見ながら「これ、開けてえ(笑)」と、お菓子を手にして笑っている息子……。彼にはそんなことより日常の流れになっていることが一番いいんだなとふと感じました。

冬も本格化、インフルエンザの足音にヒヤヒヤしながらお過ごしの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。メンターにとっては自身の健康も子どもの健康も同じぐらい大事なことです。この時期は活動日が近づくと子どもの様子にも目を光らせていつも以上に事前の神経を使います。応用研修も近づいてきました。ご参加のみなさま、ご自身・お子さんの健康管理には十分ご留意ください(人のことを言っていないかもしれませんが・・・)

応用研修が終わるとやってくるのは「花粉症の季節」今から花粉症対策もスタートです。

発行者：愛知県自閉症協会(つぼみの会)

〒460-0013 名古屋市中区上前津2-14-25 上前津中央マンション202号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: [tubomi-aa@nifty.com](mailto:tubomi-aa@nifty.com)

編集担当者：支援部 加藤 香